

ときを越え
受け継がれるもの

米里農村公園（人首城跡）

〓 江刺区米里字荒町 〓

その昔、宿場町として栄えた江刺区米里字人首の街並みから南の高台にある米里農村公園。人首城跡に整備された同公園は、地形がほぼ当時のまとなっており、この地に城を構えた面影を色濃く残す。

江戸時代初期、伊達藩と南部藩が隣接するこの地は、辺境紛争が絶えなかった。その紛争を鎮めるため1606年、沼辺重仲が移封された。その後、第十代城主の武房が城を明け渡すまで262年の長きに渡り、沼辺氏の居城とされてきた。

敷地内には、米里出身の三島駒治氏の頌徳碑が建立されている。宮城県の子三島学園創設者である駒治氏は、江刺出身の学生を積極的に受け入れ、地域の教育向上に貢献した。

戦没者を祀るため、本丸跡に建てられた招魂社。周囲のモミジやイチョウは、色鮮やかに秋の深まりを告げる。

※江戸時代は伊達藩主の家臣が移封されたため、正式には人首要害

広告



1 地域の先人・三島駒治頌徳碑などが建立される二の丸跡。秋が深まり木々が鮮やかに色づく
2 本丸跡に建てられた招魂社には地域出身の戦没者が祀られる。毎年10月5日には、この場所で慰霊祭が行われる